

12月の知恵袋

子ども教育実践総合センター



12月のメニュー



○12月お薦め絵本

○ちょっと耳寄りな情報

○12月の手遊び

○こんなとき、どうする？



12月お薦め絵本



『メリークリスマス、ペネロペ』



アン・グットマン 文
ゲオルグ・ハレンスレーベン 絵
ひがしかずこ 訳 岩崎書店(2005)
クリスマスの準備をする
ペネロペには色々なことが
起こります。さあ、無事パー
ティーはできるのかな？楽しい仕掛け絵本です。



『よるくま

クリスマスのもえのよる』
酒井 駒子 作 白泉社(2000)
夜になるとやってくるぼくの友
達“よるくま”。クリスマスにやっ
てくるサンタクロースってどんな人な
のか、一緒に考えたい絵本で
す。



『まどからのおくりもの』

五味太郎 作 偕成社(1983)

サンタさんがみんなにプレ
ゼントを届けます。でも、窓
から見えた動物たちはなんだ
か違ってみたい…。ペー
ジをめくるワクワク感が楽し
い絵本。



『おおきいツリー、

ちいさいツリー』

ロバート・バリー 作

光吉 夏弥 訳 大日本図書(2000)

大きすぎるツリーの先っぽを少し
ずつ切っていくと、ほら、みんなに
ぴったりのツリーができていきま
す。



12月の手遊び

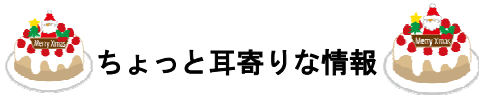
ーとんとんとんとんひげじいさん (Xmasバージョン)ー



作詞 不詳 作曲 玉山英光

①キラキラキラキラ ほしのよる ②リンリンリンリン ベルがなる ③トントントン
ト ナ カ イ さん ④シューシューシューシュー そりがくる
⑤そつとそつと サンタさん ⑥キラキラキラキラ プレゼント

- ①頭の上から両手をキラキラさせながら下ろす
- ②片手ずつ左右にベルを鳴らす
- ③人差し指で角を作って左右に振る
- ④両手を左右に斜めに下ろす
- ⑤大きな袋を背負うように
- ⑥両手でプレゼントを渡す



ちょっと耳寄りな情報

<☆*:Xmas-aroma candle を作ろう:☆*>

天ぷらをしたあとの油を固めて捨てる“廃油凝固材”を使うと簡単にキャンドルが作れます。クリスマスに好きな色、好きな香りのキャンドルを手作りしてみませんか。

- 【材料】①サラダ油 ②廃油凝固剤 ③好きな色のクレヨン ④鍋
⑤好きな香りのアロマオイル ⑥ティッシュペーパー ⑦耐熱ガラス容器

【作り方】

1. 鍋にサラダ油を入れ、80~90度ぐらいに温める。
2. 削ったクレヨンを①に入れて溶かす。好きな香りのアロマオイルも数滴入れる。
3. 廃油凝固剤を入れ、“ろう”の完成。
※冷めてしまうと固まってしまうので注意。
4. ティッシュペーパーで細い“こより”を作り、キャンドルの芯にする。
5. 割り箸にティッシュペーパーの“こより”を挟んで、耐熱ガラス容器の入れ口に渡し、こよりが芯になるようにする。
6. 作った“ろう”を5の耐熱ガラス容器に流し込み、冷えて固まるのを待つ。
7. できあがり。



【こんな時、どうする？ —なんでもイヤイヤという子どもへの対応—】



生まれてからしばらくの間、子どもは自分の望んでいることはお母さんが叶えてくれるという安心感や、お母さんと一心同体のような感覚を持っています。これを「母子一体感」といいます。そのため、生まれてからイヤイヤ期を迎えるまでに、自分を守ってくれる存在である母親や世話をしてくれる身近な大人に対する“愛着”を身につけ、その安心できる関係の中で生活経験を積み、「自分はできる！」という自信や安心感を持つことがその後の自立に向けてとても大切になります。

そして、成長をしてくると「自分とママは別々の人間なんだ……」と気がつく時期がきて、そこで、とりあえず多くのことに対し「イヤだ！」(子どもという別の人格の主張)が始まるのです。つまり「イヤだ！」は、自分という存在を意識して主張できるようになったという証なのです。そして、自分の行動に相手がどのように反応するのかを確かめている時期でもあります。「この人は自分の存在を認めてくれているのかしら？」と。

保育園や幼稚園で母親がいない状況下において、子どもが自分の存在を意識して主張できる相手は先生になります。実習生もその対象とっていいでしょう。それでも、目の前で「イヤだ！」を連発されるとどのように対処してよいか分からなくなりますよね。まずは、子どもの気持ちをよく聞いてみましょう。「なぜ、いやなの？」と。そして、それが辻褄の合わないことでも「そっか、これが嫌だったんだね」と共感してあげることが大切です。子どもは「ちゃんと受け止めてくれている」「本当の気持ちを言っても聞いてくれる」と思えると、意外と素直に同意してくれます。保育の現場にいるとつい、「みんながやっているのだから言うことを聞かせなくちゃ！」という思いを持ちがちです。でも、子どもの立場になって考えてみると、自分の思いも分かってくれない人の言うことを聞きたいと思うのでしょうか？みなさんも指示命令ばかりの先生よりも、考えを任せてくれる先生の話なら良く聞けるという経験があると思います。

子どもがイヤイヤと言ってなかなか話が前に進まないときは、「これとこれとどっちにする？」と子どもにやり方を選ばせてみましょう。自分で決めたことは案外きちんとやるものです。それでもだめなら、優しく子どもを抱きしめてみましょう。言葉だけでなく、スキンシップを通じて「受け止めるよ」というサインを伝えることになり、子どもも安心しやすくなります。

